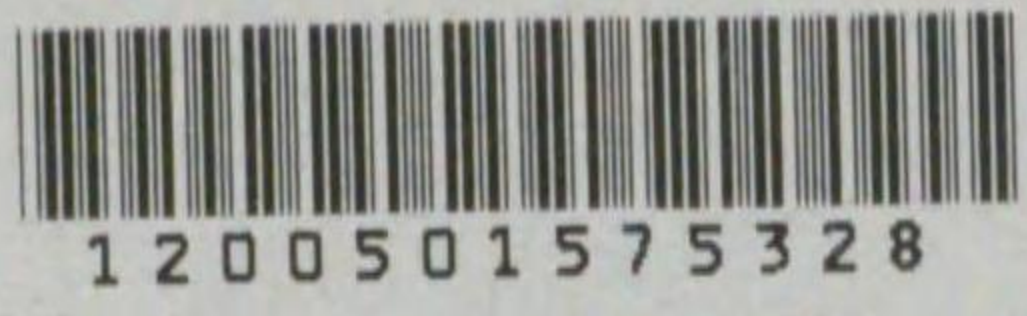


672-96



1200501575328

672
96

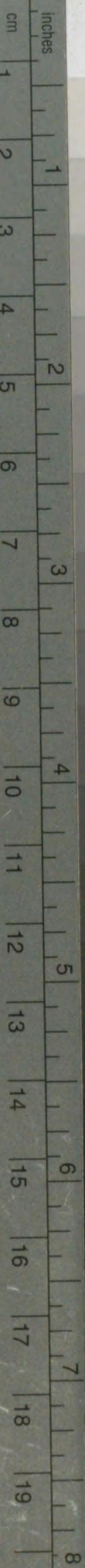
ソウエート政府の聯盟加入問題
國際思想研究会編

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak



ソウエート政府の聯盟加入問題

(平和のためか? 政治的取引?)

國際思想研究會

序言

發行所寄贈

鹿を追ふ者山を見ず、世の政治に従ふ者往々にして政治、經濟及法律以上に祖國、風教及思想あるを忘る。最近に於けるソウエート政府聯盟加入問題に對する西歐政治家の態度は正に之れに近きものがある。然るに幸にして西歐諸國の愛國團體、宗教團體及反第三インターナショナル諸團體は同問題を提げて蹶起し、彼等の祖國並に人道、風教及思想のために奮闘を試みつゝ、あきらまぬものが多い。是れ其の要旨を編述して他山の石となす所以である。

昭和九年十月

國際思想研究會

672-9

目次

- 一 はしがき……………一頁
- 二 ソウエート政權を表裏より見て……………二
- 三 ポリシエビキ革命と露國智識階級……………四
- 四 ポリシエビキ政府と佛國智識階級……………七
- 五 ポリシエビキズムと世界の智識階級……………一
- 六 ポリシエビキをして其の對外政策を語らしめよ……………一五
 - 其一 ソウエート政府側より發表せらるゝポリシエビキの對外政策……………一五
 - 其二 第三インターナショナル側より發表せらるゝポリシエビキの對外政策……………一六
- 七 吾人をしてポリシエビキの外交政策を評せしめよ……………一七
 - 其一 ソウエート政府の外交の矛盾……………一七
 - 其二 第三インターナショナルの革命外交……………一九
- 八 聯盟とソウエート政府の聯盟加入問題……………二一
- 九 日本とソウエート政府の聯盟加入問題……………二七

目次

二

國境思想研究會

國境思想研究會

その目的は、我が國の邊境を研究し、其の發展を促進し、其の治安を維持し、其の利益を保護することである。其の範圍は、我が國の邊境に關する一切の事項である。其の組織は、有志の學者、實業家、政治家等からなる。其の活動は、調査、研究、宣傳、建議等である。其の成果は、我が國の邊境の發展に資するものである。

目次

國境思想研究會

附録

二

一 社會主義ソウエート聯邦の國際聯盟加入に對する抗議
 …… (在瑞西)反第三インターナショナル協會 …… 頁

二 カール・ラデツクの『ソウエートと國際聯盟』論
 …… (瑞西)ジュールナル・ド・ナシヨナル紙 …… 九

三 ソウエート聯邦と國際聯盟 …… (佛 國) リユマニテ 紙 …… 二

四 ソウエート政府の聯盟加入とジョルジャ國の獨立
 …… チエツコ上院議長 スークツプ博士 …… 一六

五 ソウエート政府の聯盟加入反對論の根據
 …… 二 瓶 兵 二 氏 …… 九

六 政治と道德 …… (瑞西)ル・メツサジエル・ソシアル紙 …… 二六

ソウエート政府の聯盟加入問題

(平和の爲めか? 政治的取引か?)

一 はしがき



ソウエート政府の聯盟加入問題を議するは、同政府の加入に對し日本が賛否何れに出づべきかを云はんとするのではない。既に聯盟を脱退せる我國には斯る検討の必要もなければ意義もない。が、日本が聯盟を脱退せるは、敢て東洋に跼蹐して偏安を事とするものにあらずして、益々友邦の誼を敦くし正義公道を世界に敷かんとするものなるを以て、聯盟其後の行動に就いても之れを聞くに吝ならざるは勿論、我國と關聯の多きソウエート政府の聯盟加入問題の成行を見ては(一)滿洲問題以後も歐洲諸國は依然として正義よりは寧ろ其の政策のために聯盟を左右し居るや(二)ソウエート政府代表者が聯盟を彼等の宣傳舞臺に利用する場合の影響は如何及(三)聯盟加入後に於けるソウエート政府の對極東政策に變化あるべきや等を講究すると共に、更に思想問題よりソウエート政府の聯盟加入問題と關聯して

歐洲政治家乃至智識階級のポリシエビズムに對する認識及態度を論ずるの必要がある。

二 ソウエート政權を表裏より見て

ソウエート・ユニオンは國際聯盟の原聯盟國ではない、又た聯盟規約に加盟を招請せられたる國でもない。從て其の聯盟加入は規約第一條第二項に依りて(一)國際義務遵守の誠意あることに付有效なる保障を與へ(二)且其の軍備に關し聯盟の定むることあるべき準則を受諾し而して(三)聯盟總會三分の二の同意を得て始めて出来るのである。が、最近の情勢に於ては此等の條件は既に完備し而して聯盟も亦ソウエート政府加入の結果として平和機構の建設に力を添へらるべきを以て之れを歓迎すべく、從て同政府加入問題の解決點は寧ろソウエート政府側より提出せらるゝと傳へらるゝ條件を現聯盟加入諸國が容るゝや否やにあると言ひたる者あるが、之れはソウエート・ユニオンを専らソウエート政府と云ふ表面より見てポリシエビキ側の言論を其の儘に受入れんとする一派の説なるも先般の聯盟總會に於ける取扱は大體は此の説に従つてゐる。

之れに反してソウエート・ユニオンを主として第三インターナショナルと云ふ裏面に於ける組織の

實際行動より觀察する者は、若し聯盟にしてソウエート・ユニオンの加入を許さんか、彼は爾後道義的權威としての力を失ひ單に一二強國の政策の道具となり、而して聯盟はポリシエビキ宣傳の世界的機關に利用せられ、何等其の存續の理由を有せざるに至らむ、即ち問題は規約第一條に非ずしてソウエート・ユニオンは規約前文に掲げられたるが如く公明正大なる關係を規律し、國際法の原則を確立し又た組織ある人民の相互の交渉に於て正義を保ち條約上の義務を守り、以て國際協力を促進し且各國間の平和安寧を完成せむとするが如き國家であるや否やと云ふ問題を基點として聯盟各國がソウエート政府の聯盟加入問題を審議すべきであると云ふのである。現に先般の聯盟總會に於て反對又は棄權せる國々の見解は之れに近いのである。

ソウエート・ユニオンを表面のソウエート政府よりのみ論じて國際法的國家と取扱ふものと、之を裏面のコミンテルンよりのみ見て世界平和の破壊者と斷定するものとの間に前述の如き氷炭相容れざる主張を生ずるは必しもソウエート政府の聯盟加入問題に就てのみではない。同政府の成立及承認の際にも略ば同様の問題に接したのである。が、之れは單に事實の見方を異にすると云ふのみではない、ポリシエビキが其の在野地下時代より考案せる所謂思想戰爭に關する認識及之れに對する態度の相異より來るのである。

仍りて左に露國インテリゲンチヤのポリシエビキ革命に際して取れる行動及最近ソウエート・ユニ
オンの聯盟加入を最も斡旋せりと云はるる佛國及其他の各國智識階級のポリシエビスムに對する態度
を擧げて之れが検討を試みる。

四

三 ポリシエビキ革命と露國智識階級

元來政治家、學者、文士及藝術家等所謂智識階級は各國の智腦として國民の木鐸たるべきものにして
猥りに外來文化及思想を無批判に受入るべき筈なきに拘はらず、現在コミンテルンが各國智識階級の
誘拐に甚大の努力を拂ひつゝあるは、其處に何等かの理由がなければならぬ。而して之れが解説を
與ふるものは實にポリシエビキ革命に際して取れる露國智識階級の態度である。以下エツサード・ベ
ー著『白い露西亞』に依りて其の大體を紹介する。

「遡れば露西亞革命は自由思索に耽れる露西亞有識階級 (Intelligenz) の仕事であつたのである。
一九一七年當時露西亞の上流階級は勿論高級の軍人の多數も『自由』の理想に賛成せないものはな
かつた。従て或意味に於て二月革命は上級社會より來たる革命にて其主動者中には例へば露西亞の貴
族及宮中に關係ある者も存した。而して革命の進路は始より豫定せられ。一般人民の自由、自由な
る民主主義、進歩的改革及西歐同化と云ふ順序に出でんとしたのである。此のプログラムは自由主
義の人々及政黨に屬する者の多數には帝政末期の夫れと比較して根本的大進歩と思はれたのであ
る。實に斯る理想の政治を實現せしむるために貴族は其の特權を抛ち、人民は西比利に流罪に處せ
らるゝを顧ず、又た社會主義者も其生命を犠牲としたのであつた。……(中略)……

帝政を倒す事は容易でなく、百年に亙る革命運動も之れを爲し得ざりしが、偶々世界大戰起りて
惡戰四年に及び、人心戰爭に倦めると共に帝政に忠誠なる軍人が該戰爭中陣沒せるを以て始めて二
月革命の勃發となつたのである。斯くて偶然にも革命は成りて皇帝の退位を見るに及ぶや茲に全露
西亞は忽然として精神的に戦ふべき敵を失ひ、唯だ今後露西亞の前途は誠に坦々たるもののみ思
つた。實に二月革命當時の人心は酔へるが如くに歡聲を擧げ、雀躍して愛國的希望に燃えたのであ
つた。

然るに此の自由なる露西亞に、思ひも依らざる又た知られても居らざる、而して輕蔑し居りたる
有力の反對者が現はれた―ポリシエビスム之れである。ポリシエビスムが世界的に見て如何なるも
のなるかは二月革命當時の露西亞には諒解されなかつた。二月革命家に對してはポリシエビキの政
綱は語法と云はず、目的と云はず又た理想と云はず一切想像外に屬し、實際何等の誇張なしにトロ

ツキ一の所謂第四世界 (dimension) よりの現象であつたのである。各人はボリシエビキは狂者であるか又は犯罪者であるかに付いて迷ふた。が、結局は獨逸のスパイであると云ふ事に一致した。露西亞革命の標榜せる輝しき場面は此の待設けざりし反對者の出現に依りて甚しく陰鬱となつた。が、ボリシエビキ革命の危険殊に同革命の勝利を想像するものはなかつた。否、公生活を眞面目に考ふる人はボリシエビキ革命などは既に現實に行はれたる後に於ても尙ほ之れを信せとんはしなかつたのであつた。而して之れ實に二月革命が十月革命に殆んど抵抗を試みざりし所以にて、當時世人は單に亂心者の天下は數日若くは長くは數週中に自然消滅に歸すべきを當然の如くに見て居たのである。

二月革命と共に成立せる臨時政府は帝政露西亞の正統の後繼者にて舊露西亞との間には何等の隔離もなく、軍隊、高等諸學校、各官廳、各種國際條約及國債は其儘に引繼がれ、舊露西亞の傳統は二月革命後も其力を保有して居たが、ボリシエビキは之れに反して舊露西亞帝國の終焉、國家機關の解消及舊國家一切の特徴の消滅を意味し、何人もボリシエビキ政治の正體を解するものなく、レーニンが各露西亞人に人肉を食ふ可しと命令したと假定しても別に怪しまざる程度に不可解視され、ボリシエビキが金品、裁判所、國境及私有權の廢止を始めても一般は凡べて之れを其儘に打任せてゐた。』



エツサード・ベ一の言必しも過激ではない、現にケレンスキーの如きも佛國の對蘇接近を攻撃して『經驗は何人をも教育せない！、世人は容易に何物をも忘れて仕舞ふ。彼等はモスクワ政府が單獨媾和と裏切を以て生れ、今日に於ては打つて變つて所謂「對外平和事業」を求めつゝあるのを忘れてゐる。又た彼等の近年に於ける對外政策にも全く無見識である。殊に世人はソウエト政權の本領は何事を措いても他國內に内亂の炬火を投込むに於てを忘れてゐる。加之、世人は此の政府の日々の政策が内に對しても外に對しても憎惡、嘘言及兇暴に由りて導かれつゝあることをも看過してゐる』(一九三三年三月一日巴里發刊「ラ・ルシエ・オブリーメ」紙參照)と痛罵してゐるが、ケレンスキー自身も政權の地位に在りし一九一七年夏頃は未だボリシエビキに對する認識不足にして終に彼れの祖國を顛覆に導いた事は最近の歴史が語る所である。然らば露國の所謂智識階級は何故に思想戰爭に於て斯る不甲斐なき態度に出でしや、試みに最近に於ける佛國有識階級の對蘇見解と對比して考察を加へる。

四 ボリシエビキ政府と佛國智識階級

佛國は歐洲に於ける自由思想の搖籃地であり、既に一八七〇年巴里包圍戰當時コムミュニンの騷擾

も經驗したるを以て。ポリシエビズムに對する認識の如きは歐洲各國中に於て一頭地を抜くべき筈であるが事實は否らす。露國前宰相ココフツオフ伯は革命後其の故國を脱して専ら巴里に在り、時々ポリシエビキ政權の主張及實政策を佛國人に紹介し、先年其の所説を編纂し『ポリシエビズムの業績』(Comte Kokovtsoff, Le Polchevisme a l'oeuvre, 1931)と題する一書を公にせるが、其の序文中には實に左の如く云ふてゐる。

『各國及各國政府は此問題に就て各自其の特有の政策を採用してゐる。然れどもポリシエビズム及び攻勢的インターナショナルが國家の境界を無視するのは世界的現象であることを信じて居らぬやうである。尤も一たび彼等の攻撃を受けた國家は力の限り之を防禦する。が、間もなく何故に又如何にして血が流され、且彼等の生活が迫害されたかを忘却してソウエートと協約を結び、之れと貿易を開始し、ポリシエビキの手から眞の紙屑にすぎない約文を以て宣傳をなさぬ旨の保證を得て満足して居る。』

國內に於て未だポリシエビキの暗躍を見なかつた他の國家は自然の安全保障ありて外部よりの攻撃より保護されるものと確信し悦んで手を束ねて居る。彼等は第三インターナショナル及クレムリンに於ける其策謀の指揮及補助を受けたる共產運動が國中に發展しつゝあることに更に氣が附かな

右ココフツオフ伯の著書に對して同伯の舊友にして最近長逝せられたる前佛國大統領レーモン・ポアンカレー氏は實に次の題辭を贈つてゐる。

『冀くば此書がココフツオフ氏の同胞をして早晚眼を開かしめんことを、而して之と共に餘りに冷淡なる人道をして現實の悲哀と災危とを覺らしめんことを。』

不幸にして今日までの所、各國民は共同の危険を除かんが爲めに合同しやうとはせず個々別々の態度を執り、彼等の平和に反對して企てられたる宏大なる陰謀に關して何等憂慮する所が無いように見える。然かも更に嘆はしく、更に奇怪なのは彼等の中の或者が露國に於て速かに我利的目的を達せんとしつゝある事である。斯くの如き盲目的行動は眞に言語の外である。獨立を熱望して居る國家が斯かる無謀の行動をなす結果は世界の他の部分と共に彼等の掘りたる深淵に陥落せぬであらうとは如何にして考へ得べきか？

ソウエートが世界のあらゆる市場に行ふダンピングは何人をも假借せぬ。新露國は世界何れの國に對しても其經濟的不安昂進を機として不和の種を撒布し、各國をして將に來らんとしつゝある災厄に對して自身を保護するの力を有せしめぬやうにするのである。

ソウエートは斯る計畫を有することを少しも陰蔽せぬのである。今や各國民は相互間に爛眼にして活動力ある協調を設くるの時期である。攻勢的蠻行に對して文明の平和的防禦を設備するは今日

の急務である。』

右の如く佛國人と雖も擧げてボリシエビスムを認識せぬ譯ではない、ソウエート政府を見て之れと相表裏するコミンテルンを知らない譯でもない。現に同國上院議員エツカール氏は客年デュー・モント誌に寄せたる其の「佛蘇不侵略條約論」中に左の如く云ふてゐる。

『吾人はソウエート政府が革命的性質を有すること竝に同政府が民主主義國民及誠實・正義の原則を侮蔑することを熟知してゐる。又ソウエート政府が此等國民と取交す約束が甚だ頼りなく且不眞面目なものであることも何人も理解して居らねばならぬ。』

全世界を顛覆し、我西歐文明の全基礎を破壊することをプログラムとする政府は其の主要の目的達成を妨ぐる約束などに拘束さるゝものとは認めないに違いない。

夫れ故に吾人は首相(エリオ氏)が假令儀禮的とは云へ、ソウエート側に敬意を表し彼等と益々親密なる關係を結ばんことを希望し、誠心其の繁榮を祈ると述べたるを見ては驚かざるを得ない。而してソウエート大使が其の答辭として同政府の恒久平和政策を語り、又た全世界の諸國との親密なる關係に就て云々せるを聞ける時には惡魔が修道者の眞似をする外思はれなかつた。』

尙ほエツカール氏の說に従へば、佛國は佛蘇不侵略協定に依りて(一)獨逸とソウエートとを結ぶ連鎖を斷つこと(二)ボリシエビスムの宣傳を阻止すること及(三)佛國の生産物の爲めに新市場を開拓する

ことを計つたのであると云ふ。然らば今般のソウエート政府の聯盟加入に關する佛國の盡力も亦た政治上其他の理由あることは想像に難くない。が、更に根本に遡つてエリオ氏、其他佛國の智識階級就中社會主義者のボリシエビスムに對する認識及態度には一九一七年に於ける露國の智識階級の夫れに近きものが無いのであらうかと云ふ疑問がある。現に自ら其の愚を演じたる露國社會主義者ケレンスキー一派も最近は反て佛國人に就て左の通り云ふてゐる。

『リトヴィノフが橄欖樹の枝を手にする平和の鳩？。夫れならヒットラー又はムツソリニーを平和の天使として描き出すことも出來やう。然し夫れでもリトヴィノフの平和の説教及人道的表現に信を置き、ヒットラー獨逸より來る日増しに擴大する危険を排除するためにソウエート露西亞に信頼し得ると思ふてゐる者が相當ある』

五 ボリシエビスムと世界の智識階級

或は資本家の壓制に苦しむ労働者が勞農政權の標語に迷ひ、或は生活に惱む極貧階級がコミンテルンの生活第一次必需品に對する人民の不平を利用する煽動に欺かるゝが如きは、彼等の境遇より

見てあり得べき事と思はるゝも、意外にも世界各國の労働者中には寧ろ國家主義者多くして、其の祖國意識もなかく強固なるものあるに反して所謂智識階級中に其の反對の現象を認めらるゝは以上引用せる露佛兩國の實例が示す如くである。今之れに就て智識階級の特徴二三を擧げる。

一 支那の智識階級

『常に面子^{メンツ}換言すれば名譽と富を得るに注意を怠らざる有識階級も漸次レーニン、スターリン及其の一派に傾聽しつゝある。之れボリシエビキが時代遅れの分子に代ふるに其の國を改革すべき運命にある偉人を新に選舉すべきを聲明して彼等に媚ふるからである。青年支那人殊に國民黨領袖即ち孫逸仙、宋之文其他現南京獨裁者蔣介石等も彼等を稱揚する莫斯科に従ふを躊躇せなかつた。』

(右ルジャンドル氏著『亞細亞對歐洲』の一節)

二 獨逸の智識階級

『莫斯科の巴里への接近は決して突然ではない。既に一九三三年三月の總選舉直後に其の兆があつた。即ち獨逸に於ける共產主義革命の希望が絶へてヒットラーの指導下に獨逸國民の健全化すると同程度に於て、莫斯科の獨逸への「友誼」は憎惡に轉じた。此種の關係及其の徵候は吾人が繰返して力説せる所なるも、自由主義的政治家の理解する處とはならなかつた。……(中略)……莫斯科は國際共產黨成立以來單一の政治的思想を有し且之れを強靱に遂行し來つてゐる——即ち世界革命の思想である。』

(右一九三四年六月四日伯林發刊『Antikomintern』誌に依る)

三 歐洲の政治家階級

『ソウエート政權に對する歐洲諸國の態度には協調一致がない。即ち協定もなく、方策もなく、「尖銳なる鐵線」の時代より個人的接近、孤立的交渉に移り個人的事業又は利權の方法に依りて各國個々に行動し、茲にも歐洲は歐洲諸國間の敵視に依りて歐洲を弱め、誠に歐洲全體のためには愚昧にして不吉なる政策を行ふてゐる。』

(右Albert Sarraut : "Grandeur et Servitude Coloniales"の一節)

ボリシエビキ側は斯る智識階級の性癖を知悉して、往々行詰り状態に在る智識階級など、評し、又た「各國智識階級がフルシヨアの教養の結果として、激し易く氣むづかしく且極度に個人主義的である」(佛國共產黨員の言) 點を利用するに大なる努力を拂つてゐる。白耳義の反ボリシエビキ團體が「ボリシエビスムの力は正直なる人々の無關心 (L'indifférence) より來る」と戒めつゝあるも一理ある事である。従て吾人は現在歐洲各國の對ソウエート政府折衝を觀察するに當りては常に此の智識階級の性癖を念頭に置かなければならない。尤も佛國のエリオ氏の如きを律するに單に面子に依りて行動

する支那智識階級を以てすることは當らざるべく、同氏を以て佛蘭西に於ける愛國者と評する者もあるが佛國の愛國の觀念は必しも吾人の夫れと同じからざるものあるは既に故有賀博士が其の著『近時外交史』中に佛國一八七〇年九月四日の革命に關聯して次の如く指摘せられし所を見るも明かである。

『凡そ國民の困惑千八百七十年九月三日以後の佛國に於けるが如く甚しきものあらざるべし。九月三日セタン大敗の報巴里に達するや、人皆以爲らく帝政は終ると。ナポレオン三世の皇后巴里に在り、幼主を擁護して自ら政を攝政せんと欲す。然れども皇統に舊故の因縁なく、民心一朝にして離れ、又收め難し。四日の朝チエール(Thiers)委員を選擧して假政府を組織し、成るべく速に國民議會を召集して新に政府の組織を定めんと主張す。此議事の未だ了らざるに群民議場を襲ひ、議員敢て抵抗せずして解散す。ガンベツタ(Gambetta)巴里選出の各議員を率ゐる巴里政廳に至り、共和政府を宣言す。、、、、、佛國人民は革命に慣れ、冷然として舊政府を送り。新政府を迎ふる實に他國人民の想像の及ばざる所なり。九月四日の如き、其の一例にして、最後の共和政府の時に使用したる官印、用紙等一八五一年以來函中に納めありしものを直に取出して其の儘使用し、ジュール・ファールは前の共和政府が一八四八年に發したる公文を模範として自己の就職を各外交官に披露せり。』

六 ボリシエビキをして其の對外政策を語らしめよ

其一 ソウエート政府側より發表せらるゝボリシエビキの對外政策

本年六月二十五日駐英ソウエート大使は全英平和會議に於て演説してソウエート・ユニオンの對外政策は平和確保を原則となし、隣接諸國と不侵略條約を締結した。が、日獨兩國とは未だ其の成立を見るに至らない。又たジュネーフの軍縮會議には軍備全廢を提議せるも各國より受諾せられなかつた。然しソウエート・ユニオンは平和確保の運動を放棄するものではない』と云ふたが、本年五月二十九日ジュネーフ軍縮會議に於けるリトヴィノフの演説も既にソウエート政府外交の要點として次の如く聲明してゐる。

『ソウエート政府は近年自らイニチアチーフを取りたる安全保障の諸措置が特に關係ある東歐諸國に採用せられたるを顧みて矜恃なしではない。侵略國定義條約及不侵略條約を結び且其の期限を出来る丈延長せしめたる結果、ソウエート政府は其の隣邦の大多數との相互信頼を強化し、又た其の安全感を増加するに成功した。予は新案の各種協定及聲明が將來廣く實際に適用せられ即ち強國に依る協定及聲明が該強國間に存在し若くは其の近隣に存在する弱國の獨立を保障することを信ずるものである。ソウエート政府は必しも常に其の努力に成功したのではない。又た其の折衝せる凡べ

ての國より回答を得たのでもない。が、斯る場合に於てもソウエート政府の提議は平和の破壊が何を招來するかを明かにしたる點に於て平和のために貢獻してゐる。』

其二 第三インターナショナル側より發表せらるる、ボリシエビキの對外政策

一九三四月七月十四日發刊『フラウタ』紙に依れば、同年七月十日庫倫に於て蒙古共和國獨立十年記念の祝賀會が行はれ、翌日は蒙古軍の觀兵式も舉行されたが、其の際カラハン氏は蒙古軍及同國民の代表等に挨拶の辭を述べて、若き蒙古政府の功績殊に其の政府と勞働者との間の革命的聯結の強固なること、民族的覺醒並に民族文化の増進すること及有力なる革命的軍隊の創設を稱讚せりと云ふ。之れ果してリトヴィノフ氏の所謂平和のために貢獻するたに行へるものなりや。否、吾人は既に本年一月マヌイリスキーが『コミンテルンの各國支部は革命戰鬪の鐵火中に於て鍛鍊鞏化され、次第に全ソウエート・ユニオン共産黨と比肩し得るものとなるであらう。が、此等の戰鬪に勝を制するためには、今日既に最も危険なる右系機會主義オウボルチエニスムに對し、又同時に左傾的偏向に對して一層決然たる砲火を注ぐことが肝要である。』と論述せるを聞く。或は赤露が轉向して共産主義を清算せりと云ひ、或はボリシエビキが既に世界革命を斷念せりと評するが如き抽象的論議よりは、現にボリシエビキがソウエート政府と第三インターナショナルの兩面より自ら公表する言動に就て検討を加ふるのが妥當であらう。

何故となれば實際に於てボリシエビキ政權はソウエート政府と第三インターナショナルとの表裏兩面ありて自らも敢て之れを否定せない。唯だ西歐二三の國々が其の利害關係よりして單一組織的國家の如くに取扱はんとするは正に一箇の擬制を固執せんとするものにて其の國際平和に貢獻する所なかるべきを思はしめる。般鑑遠からず、滿洲事變に關聯して客年二月二十六日日本政府が聯盟規約第十五條第五項に依りて聯盟に提出せる陳述書中には左の一節がある。

『總會の報告書は第三部に於て支那が現在尙歐米諸國と同等に取扱はるべき單一組織的國家なりとの擬制を固執せんとし居るやに認めらる……支那に利害關係渺き國際聯盟諸國は左したる困難なくして右便宜上の擬制を其の儘維持するを得べけんも經濟上及軍事上全然別個の地位に在る日本は敢て欲する所に非ざるも右擬制を検討し之が限界を設け且現實に即して其の進路を定むるを餘儀なくせしめらる。』

七 吾人をしてボリシエビキの外交政策を評せしめよ

其一 ソウエート政府の外交の矛盾

『莫斯科政府と第三インターナショナルとの間に何等かの關係ありとするのは全く根據なきこと』

て、恰もヴァンターヴェルト氏が白耳義國の一大臣たると同時に第二インターナショナルの會員たるの故を以て白耳義政府と第二インターナショナルとの間に何等かの關係ありとするの理由なきが如くである』とは、ソウエート政府當局の常套語であり、客年十一月十六日もリトヴィノフはルーズヴェルト大統領に約して『北米合衆國、其の領土及屬領の全部若くは一部に於ける政治的若くは社會的秩序の顛覆或は其の準備又は暴力に依る右秩序の部分的變改を目的とする團體、結社のソウエート・ユニオン内に於て成立、存在又は活動することを禁止若くは防止することを以てソウエート政府の一定不變の政策と爲す』と云へるが、翌年一月莫斯科に開催せられたる共產黨第十七回大會に於てはモロトフが『ソウエート國共產黨は第三インターナショナルの前衛軍である』と聲明し、又たマヌリスキーも『各國共產黨は、總ての勤勞者の祖國にして且世界プロレタリアート革命の支據點であるソウエート・ユニオンに對して、資本主義世界が帝國主義的且極めて反動的の戰爭を開始するを許さざる様凡ゆる方法に依りて努力すべきである云々』と論じてゐる。

勿論第三インターナショナルの活動には手加減があり、殊にソウエート側に於て其の努力を五年計畫の實現に集中して財政難及經濟難に當面しつつ、ある現時の如きは其の活動方面を危険及抵抗力の最も少なき方面例へば蒙古、新疆等の如きに求めんとするは在り得べき事なるも、ソウエート政權の外交が常に同政府と第三インターナショナルの間を徘徊し居るは一般に之れを認めなければなるま

い。

其二 第三インターナショナルの革命外交

『最近チウリツヒ市に瑞西共產黨指導委員會が設立されたるが、同地では一九三二年上半年中に猛烈なる騒動が起り、行列、示威運動、大道演説及勞働者地區兵營の攻撃等行はれ、六月十六日及十七日にも同地區の市街に於て防禦壁に依る猛烈なる争亂があつて、かなり長く續きたるも秩序は回復した。が、數多の負傷者を生じた、而して右叛亂誘發の爲にはポリシオビキ戰術が正確に適用された』とは客年在壽府反第三インターナショナル協會のオーベル氏がフタベスト市發刊『ヌーベル・レヴュー・ド・ホンダリー』誌に寄せたる論説『瑞西とポリシエビスム』の一節であるが、之れと相前後して英國のサイモン外相もコミンテルンが印度及英國内の共產主義者に對して、軍隊内に細胞を設くること、一般的罷業を組織すること及租税納入を拒絶すべく納税義務者を教唆することの訓令を發したる旨を英國議會に發表し、且駐英ソウエート大使に抗議してゐる。加之、其の後も巴里及維納に騷擾あり、桑港に罷業あり又た最近は北滿鐵道賣買交渉と並行して、北滿に列車顛覆事件ありて、吾人は其の一半の事實に依るも第三インターナショナルの外交が革命的なるを信じて敢て謬なきを思ふものである。

斯くの如くポリシエビキ政權を正面より代表するソウエート政府の外交は常に矛盾を示し、又た同政權を裏面より代表する第三インターナショナルの外交が専ら革命的なるに拘はらず今や聯盟は彼を其の加盟國中に迎へたのである。之れ理論より來りしか、政策の結果か將又た實利の問題かは以下吾人の検討せんとする問題である。



上海に於ける共產主義者活動の近況

一九三三年度上海租界警察報告に依れば同年度に上海に於て共產主義運動のため起訴せられし者二二三人、發見せられし根據地一七四箇處に及び、右被告中九一人(中五人は死刑の判決を受けたもの)は支那官憲、一人は佛蘭西警察、又た五人は關係領事館へ引渡された。……押收せられし共產主義者の文書は三三八種七一、六〇七枚に達した。被逮捕者中重なる者は撲殺團、國民労働組合及軍事委員會と稱する支那共產主義團體の會員である。……軍事委員會々員の住所を搜索して各種文書の原本を發見したるが、其中三六八通は支那語、三十通は英語、二四通は佛蘭西語、三十通は安南語又た二十六通は日本語で書いてあつた。

(右 Suppressing communist Banditry in china, 1934 の一節)

八 聯盟とソウエート政府の聯盟加入問題

今前掲オーベル氏に依りて専ら聯盟所在地瑞西より見たる聯盟とソウエート政府との關係を掲ぐ。『瑞西共和國は數世紀以來自由主義の國にて、マルクス主義の原則は人民の最大多數に嫌はれてゐる、夫れはモスコイも知つてゐる。が、瑞西は地理上隣國に向て働く爲に絶好の根據地であること並に國際聯盟及國際労働事務局の所在地であることを忘れてゐない。陰謀を圖る爲には是非國際聯盟の中に入り込まねばならぬ。ジュネーヴは澤山の公人、私人が入り込む都市である。此處では或者を籠絡し、或者を威嚇し又或者を欺瞞することが出来る。是れがモスコイの狙ひ所である。それから又國際聯盟の演壇は世界的宣傳に絶好の場所であることも考へてゐる。』

國際聯盟は世界的の問題を取扱つてゐる。が、一番大切の問題即ち世界を破壊し、窮厄、騷擾及戰爭を招來するポリシエビスムの行動に就ては知らぬ顔をしてゐる。彼の巨大なる露國が赤色裁判政治の下にある間及コミンテルンの世界的組織並に其の無數の委員が到る處で文明の基礎を破壊することに努力し得る間は實際の平和や、平常生活への復歸は不可能である。國際聯盟はそれを認むることを好まなかつた。若くはそれを敢てしなかつた。然るに聯盟の爲めには其の畢生の敵であるモスコイは反て此の回避的態度より容易に利用し得べき重大なる弱點を見出し、露國の参加が無け

れば解決の出来ないやうな重大なる問題の到來するのを俟つてゐた。

經濟會議の召集は國際聯盟をしてボリシエビキ經濟と闘ふべきか又は之と協力すべきかの問題を決すべく餘儀なくせしめたが、結局は協力説が採用された。それはモスコに對する國際聯盟の本來的無氣力より來る當然の結果である。

斯くてソウエート聯邦はジュネーヴへ代表者を送るべく招待された。』

右は經濟會議當時聯盟がソウエート側代表をも招請した裏面の真相である。元來聯盟は世界的平和機關なるを以て成るべく普遍的に各國を其の加盟國となすに努力すべきは當然であるが、其の成立の精神に照して聯盟加入國の増加が國際協力を促進し且各國間の平和安寧を完成せしむる軌道を進まなくてはならない。徒らに歐洲二三の國の利害に押されて専ら政策的の立場よりソウエート國を取扱ふては其の主義を没却する。が、事實は争はれない。現にボリシエビキ側も歐洲諸國の對ソウエート政策を熟知し居りて西歐諸國と不侵略協定調印後即ち一九三二年十一月三十日のブラフタ紙の如きは左の如く傲語してゐる。

『ソウエート對外政策の新方針は世人の注目を惹くであらう。何となれば若し其の方針の變更をなすの必要があつたとすれば。夫れはソウエート・ユニオンではなく、益々ソウエート諸國を尊重せねばならない様になつた資本主義諸國中の或者であるからである。』

又た今般のソウエート政府の聯盟加入問題に就ても、本年五月二十八日のブラフタ紙は『佛國外相が我政府の聯盟加入は歐洲の平和事業に意義深い事件であると聲明せるは、同國政府が平和事業に對する脅威を感じて新鞏化手段を求むるに焦慮し居るを示してゐる。而して右聲明前世界の輿論は種々の意見を述べてゐる。が、反對論者中には其の侵略的意圖を或程度で阻止されて聯盟から最近脱退した國があることは興味ある事である。然しソウエート政府に對する聯盟加入勧誘は脱退國の關與する所ではない。又た聯盟加入の勧誘に對する諾否はソウエート政府の問題であるから彼等の意見は意味をなさない』と嘯いてゐる。

因是觀之、ソウエート政府の聯盟加入は同國が世界革命の念を抛ちて漸次國際法的國家としての完成に進み平和機構『聯盟』の建設に力を致し得るとの期待より起つた問題ではなく、一方は佛國を中心とする西歐諸國の國際狀勢、他方はソウエート・ユニオンの必要より行はれたる政治取引と見る方が實際に近い。試に最近の聯盟總會直前の本問題に關する佛蘇兩方面の形勢を一瞥する。

『ソウエート政府の獨逸接近はナチス政府の出現以來難事となり、同政府は隣接諸國の糾合を急ぎ一は獨逸に備へ一は極東の行動に自由を得んとするも單に隣接小邦のみとの協定では心細いので西歐強國中に其の支持者を得んと欲する……恰も佛國は軍備問題で殆んど孤立し目下聯盟理事會に於ても然るを以て若しソウエート政府を聯盟に加入せしむれば英伊とも相均衡し又たソウエー

ト政府を覇者とする東歐プロツクの勢力をも利用し得るとの考慮より所謂東歐ロカルノ條約問題に進んだものと信せらる。〔國際事情 第四一二號參照〕

専ら各國間に於ける公明正大なる關係を規律して國際法の原則を確立するを本義とする國際聯盟を斯くの如く單に各國利害の念よりのみ利用せんとするは、元より現在に於ける西歐政治家の打算より來らんも其の大なる原因は彼等のポリシエビスムに對する認識不足に基くものである。從て西歐人と雖もポリシエビスムに對する認識を異にするものは自ら其の所見を異にしてゐる。現にソウエト政府の聯盟加入に就ては瑞西、波蘭、和蘭及白耳義諸國に反對の聲あり、又た匈牙利、加奈太及南米諸國等も之れを喜ばない。加之、最近獨逸側の態度として報せらるゝ所に依れば同國は佛蘇協定をカムフラ―ジせんとする東歐ロカルノ條約には反對にして『佛蘇の友誼は佛露兩國の間に締結されたものではなくして、莫斯科のマルクス主義徒黨と巴里の祕密共濟組合的自由主義的黨派との間に締結せられたるものに過ぎない……英國、伊太利、白耳義及波蘭、夫れに又勇敢なる小瑞西等に於ける抗議の聲は其の明確さに於て遺憾の點はない。尙ほ、佛國に於てさへも民族、宗教、文化及禮節に對する最大の仇敵である有害なる同盟を警告する眞面目な聲―殘念ながら時には又た獨逸に對する諷刺も混へて―が聞へる』と看察する者がある。又た實際、瑞西に於ける反第三インターナショナル主義諸團體の如きは次の如き主張をなしてゐるのである。

『ソウエトを援助する國が歐洲に在るとは考へられない。が、今假に佛蘭西がソウエトと同盟したとして獨逸が露西亞に侵入した場合に佛軍が果してラインを渡つてポリシエビキを援助するであらうか。

佛蘭西人の大多數はソウエト反對である。現にマルセーユではエリオ氏がソウエト政治を謳歌したと云ふのでエリオ反對の示威運動をやつた。佛蘭西政府は自國民の手前又露西亞の人民及アンタントのスラフ民族の手前到底ポリシエビキを援助するわけに行かない。虐政に苦しむ露西亞の人民を救ふ爲め義軍を起したといふ名分を獨逸に取られる事は佛蘭西としては忍び得ない處である。エリオ氏が宣傳してゐる様に佛蘭西が若しソウエトと同盟したらベルサイユ條約は反古となるのみならず道義の上から見て佛蘭西は非常に不利な立場に陥るであらう、モリス・ミュレ―氏はガゼット、ド・ロサン紙上に於て次の如く評した。

『歐洲諸國は佛獨協約を世界平和の保障と認めるに躊躇しない。が、佛ソの提携に付ては全く反對の見方をするであらう。』

※ ※ ※

以上に於ては主として目下歐洲に於てソウエト政府との接近を計り、或は之れを聯盟に導き或は之れと東歐ロカルノ條約を結ばんとせる佛國を問題とせるが、佛國如何に歐大陸に覇を唱ふると雖も

單獨に此等の政策を實現することは出来ない。茲に於てか其の英國との諒解殊にサイモン外相の本年七月三十日英國下院に於ける聲明が本問題に關する英佛提携の一證として傳へられ、支那新聞紙(本年八月十九日中央日報参照)すら『ソウエイト政府の聯盟加入を昨日迄狼を室に入らしむる如く云へる英國保守黨及自由黨側の所説が今日忽ち一轉せるは單に佛國側よりの影響のみでなく、又た日本の東方モンロー主義及商品廉賣政策に對する一種の威嚇か』と評せるが、實は英國當局の諒解には相應の條件あるべく、又た全英國が無條件に聯盟が佛國霸權の下に歐洲聯盟化するを歡迎する理由もない。要するに西歐諸國全般のソウエイト政府觀が必しも現在に於ける英佛政府當局者の見解と同一であるものとは思はれない。従つて將來の國際狀況に變動を生ずるに伴ふて各國の對蘇政策に動搖を來すことも亦た免れない。換言すれば、聯盟とソウエイト政府との關係も眞に聯盟を世界的平和機關たらしめんとするに非ずして専ら其の實利に導かんとする現佛國政府當局の對蘇政策により指導せらるゝに於ては之れに恒久的安固を求むるの困難なるは元より當然である。否、既に佛國に於てさへ若しソウエイト政府が西歐に安定を得て専ら其の力を東方に用ゆる場合には、之れ獨逸が西歐に活躍し得る時に非ずやと論ずる者もある。

九 日本とソウエイト政府の聯盟加入問題

聯盟を脱退せる日本にはソウエイト政府の聯盟加入問題に賛否を論ずるの必要も意義もなきことは既に冒頭に述べたるが如くである。吾人の本問題に關心を有するは自ら別個の看點に存する。即ち第一は滿洲問題當時聯盟の論議及主張せる所と今日聯盟がソウエイト政府の聯盟加入問題に就て聲明及實行する所とを比較して聯盟の動きを監視する事であり、第二は吾人自らもポリシエビスムに對する認識を充實しつゝ、ソウエイト政府の聯盟加入が同政府殊に第三インターナショナルの極東に於ける活動に及ぼす影響を注視する事であり而して第三はソウエイト政府の聯盟加入は西歐に於ける政治取引の一現象に過ぎずして、假令彼れが聯盟に加入するに至るも、西歐文明社會がポリシエビキの主義若くは其の進化を容認せるものに非ざることを明かにするにある。右第一及第二は政治及軍事の兩方面より重視すべきは勿論であるが、現下日本の思想、教育及道德方面より第三の問題も亦た之れを忽諸に附する能はざる事を忘れてはならない。茲に吾人は小なる瑞西に於ける反第三インターナショナル主義者が最近の聯盟總會に前後して健氣にも此の點に就て左の如く高唱して奮闘せるを特に廣く我國一般に傳へんとするものである。

『國際聯盟の基礎觀念は道義的のものなるを以て、聯盟は崇高なる政治道德を守るにあらざれば

存在の理由なく且存続し能はざるものである。若し此の道義心を缺けりとせんか、聯盟は一の政治市場と化し言語同斷なる取引に従事せん。現に聯盟に提議され議題となり居るものは正に斯の如き取引である。』

◇ ◇ ◇
白耳義國反コミンテルン協會「セペス」主張の要旨

(一九三四年九月十五日發刊同會々報に依る)

モスコーは未だ其世界革命の意志を少しも放棄してゐない。彼等の所謂「統一戦線」なるものが若し成立するに於ては社會主義運動を直接に操縱する最大可能性を彼等に與ふるであらう。

日本との戦争に於て孤立に陥りはしまいかといふ懸念がソウエト聯邦をして國際聯盟加入を承諾せしめた唯一の原因である。

斯くてソ聯邦はジュネーブの演壇の高所から其破壊的行爲を繼續し得るであらう。

その時になると「正義及公道」の支配を確保するを任務とする聯盟が皮肉にも同主義を否定する者に参加を許すのであることを覺るであらう。

一九一四年乃至一九一八年に兎に角血を流して「正義及公道」を防衛した白耳義は左様な優遇は受けて居ない。然るに、ソウエトが國際聯盟の常任理事國となるであらうとは!

總ては必ず世人の眼前に展開し來るであらう。而して若しそれが左程に重要で無いと云ふなら、お可笑な話である。されば國家最高の利益及威嚴より見ても白耳義國は瑞西政府同様の態度を採るべきである。即ちソウエトを國際聯盟に入らしむべきに就ては次の一言あるのみである。曰く

『否!』

附 録

聯盟の正體

聯盟なるものゝ觀念は變化した。幾分疑義はあるが、聯盟は諸平和條約を改訂する權限を持つてゐる。が、今迄の處は現狀(ステータス・クウォ)擁護者と見られてゐる。聯盟は國家を超越したものである。然るに實際は國々の私慾の鉢合せ場となつてゐる。今でも聯盟を超國家と見てゐる國もあるが、實際は加盟諸國の命する處をなし得るに過ぎない。各國は聯盟に兵力を供給するかも知れない。然し愈々戦争となれば此等の兵力は各々自國の立場に返る事は明瞭である。聯盟は今や神聖同盟ともつかず自由なる道徳講話の演壇ともつかず此の兩者の間に彷徨してゐる。

一九三三年七月

英國 シスレー・ハットルストン

一 社會主義ソウェート聯邦の國際聯盟加入に對する抗議

註 本抗議は一九三四年六月在瑞西國シユネーブ市反第三インターナショナル協會より各國政府、國際聯盟及各國々際諸協會に送りたるものである。

ソウェート社會主義共和國聯邦の國際聯盟加入が容認せらるゝ可能性あるに付之に對し抗議を爲すの必要あり。

國際聯盟は規約前文及第二十三條に依り世界に於ける正義及人道の遵守を確保し、條約の嚴密なる尊重を確保し、總ての男子、女子及兒童に對し公平なる勞働條件を維持確保するの崇高なる義務を負担す。尙ほ聯盟理事會は聯盟加入條件として候補者たる國家は總ての人民に對し、平等且正規の裁判を確保すべき法律及司法機關を具備すべき事を必要とせり。聯盟規約には信教の自由に關する規定なしと雖も、信教の自由を蹂躪しながら平然として加入候補者たらんとするが如き厚顏無恥の國家あるべしとは起案者の想起せざりし處なり。又斯の如き候補者が好意を以て迎へらるべしとは彼等の等しく想像せざりし處なり。

斯の如く國際聯盟の基礎觀念は道義的のものなり、故に聯盟は崇高なる政治道徳を守るにあらざれば存在の理由なく、且存續する事能はざるものなり。若し此の道義心を缺けりとせんか、聯盟は一の

政治市場と化し、言語道斷なる取引を見るに至らん。今現に聯盟に提議され議題となり居るものは正に斯の如き取引なり。ソウエート社會主義共和國聯邦をして候補者の名乗をあげしむる爲聯盟をして其の主義を抛棄せしめんとする取引なり。而もそのソウエート社會主義共和國聯邦たるや、建國後最初の國際的行爲としてブレスト・リトフスクの背信行爲を敢てし、露西亞の國際的誓約を悉く廢棄し、又た條約を無視してジョルジャに侵入し、殘虐なる壓制を行ひ、同聯邦首腦者の自ら認むるが如く、世界革命の本據となり、國際間の正義人道を無視し、不可侵條約を締結したる國に於てすらも内亂を醸成しつゝある國家なり。

ソウエート社會主義共和國聯邦の聯盟加入を支持する諸國は右に述べたるが如き事實なし、ボリシエビスムは進化せり、又たモスコウは世界革命を斷念せりといふも、若し果して然らば露西亞共產黨の首領にしてソウエート社會主義共和國聯邦及共產主義インターナショナルの獨裁者たるスターリンが、革命的諸勢力の指導者として一九三四年一月第十七回共產黨大會に臨み更めて「吾人は世界到る處勝利を目指して邁進せん」と宣言せるは何故なりや。又同大會自身が世界革命の機關たる共產主義インターナショナルを強化するの必要を宣言せるは何故なりや？。

理事會の定めたる條件に依れば、聯盟加入候補國は其の總ての人民に對し平等且正規の裁判を享受せしむべき法律及司法機關を有することを必要とす。聯盟はゲ・ベ・ウの處分を以て平等且正規の裁判なりと認むるものなりや？。

此の明確なる加入條件に直面し、例へば既に外務省を経て加入賛成の意を表明したる英國政府の如き其の賛成投票と、不法に逮捕處罰せられたるメトロ、ヴァिकास會社員を釋放せしむる爲め已むを得ず嚴重なる外交交渉を爲したる事實とを如何に調和せんとするや？。

世界はチエカが曩に行ひたる殘虐及ゲ・ベ・ウの今猶行ひつゝある殘虐行爲を既に忘却したるや？。テロル制度を維持し居ることを自ら告白し、或は單に告發のみに依り、或はクラーク（富農）の清算を口實とし、裁判を用ひずして數百萬の人民を銃殺し又は北方極寒の假小屋に追放するが如き國家を以て總ての人民に平等且つ正規の裁判を受けしめ居るものと爲し得るや？。同國は強制労働制を實施し、且つ全力を擧げて之を維持しつゝあり。右は果して公平なる労働條件なりや？。同國は内國旅券制度により、例へば追放處分と稱し國民を家畜群同様に取扱ひ、又出國を禁止して國民の自由を拘束しつゝあり。是れ果して國際聯盟に加入する爲め實行せざるべからざる條件なりや？。

一九三三年には、露西亞全國に亙る飢饉あり。一九三四年にも數縣に亙る飢饉あり、死物狂ひの哀願書が續々として歐洲基督教會の救助團體に到着しつゝあり。而もソウエート國はこれが爲めに小麦及食糧品の輸出を中止したる事なし。是れ果して聯盟加入候補國推選理由となるものなりや？。

將亦、聯盟國たるが爲めには神に對する信仰を表白する者を悉く迫害する事を必要とするや。ソウ

エート國は宗教は共產主義と相容れずと宣言し、宗教の宣布は國家に對する敵對行爲なりとて之を處罰しつゝあり。

四

ソウエート聯邦が聯盟加入を求むるは國際間に正義人道を確立するが爲なりと信する者何處にありや。レーニンは嘗て國際聯盟を「全歐洲政匪の巢窟」なりと評せり。一九三四年五月二十七日發刊「リユマニテ」紙を一讀せば、モスコウ人が今猶此の聯盟觀を改めざる事を知らん。「リユマニテ」紙は共產主義インターナショナルの佛蘭西に於ける機關紙なるが、同紙は「如何なるものにも優りて神聖なる規約はソウエート國が全世界のプロレタリアートと結びたる規約なり。而して同規約はソウエート國をして革命及平和の利益を保護するの義務を負はしむるものなり」と斷言せり。

然らば茲に平和とは如何なる平和を意味するや？。その社會的平和を意味するものにあらざることには明瞭なり。何となれば革命は内亂を意味すればなり。

茲に所謂平和とはソウエート聯邦の手先が革命を誘發して破滅に陥らしめんとしつゝある國々自身によりて保障せらるゝ平和なり。是れソウエート聯邦は外國との紛議を恐るゝを以てなり。ソウエート聯邦巨頭は聯盟を最後の避難所となし、降りかゝる危険に對し其の保護を求めんとするものなり。降りかゝる危険とはソウエートの宣傳に依り國礎を動搖せしめられたる國粹獨逸よりの危険及日本の

敵意となりて表はれたる亞細亞よりの危険なり。日本が敵意を有するに至りたる一原因はソウエート聯邦が絶へず亞細亞に於て危険極まる革命運動を行ひたるに在り。マヌイルスキは最近の露西亞共產黨大會に於て叫びて曰く「日本の帝國主義に對するソウエート聯邦及世界プロレタリアートの勝利は亞細亞全般に互る革命の勝利とならん」と。

モスコウは此の勝利を得んが爲め聯盟の支持を得んとしつゝあり。「リユマニテ」紙は卒直に此の事實を認めて曰く「ソウエート聯邦の聯盟加入を可能ならしむるものは數月前に發生したる重要事實、即ち反ソウエート隱謀の首謀者たる日獨兩大國の聯盟脱退に在り」と。

何故にモスコウ側は斯の如き恐怖に襲はれ居るや？。ソウエート聯邦と境を接せざる獨逸及極東に位する日本の脅威以上にソウエート巨頭の恐るゝ處は露西亞内に内亂を勃發せしむる危険ある對外戦争なり。——而かも彼等は他國內に於ては内亂を誘發し政府を轉覆せんとしつゝあり。

佛國の一記者はソウエート聯邦に於ける内亂の危険を簡明に述べて曰く、
「農業の社會化は、農民間に大なる不満を醸成し、外國資本の援助を受けざる大工業の創設は、全國民をして前代未聞の困苦缺乏に苦ましむ。警察機關を充實し赤軍を優遇して全國を掌中に收むるは不可能にあらざると雖も、一旦戦争となり政府に敵意を抱き或は變節の憂ある分子をも動員する必要起らばソウエート政府に取り容易ならざる危険を招來するに至るべし」と。

數百萬の犠牲者の追憶はポリジエビキ巨頭の良心に宿りて彼等を惱まし、且恐怖心を起さしめ、天罰の近づきつゝあるを感せしめつゝあり。これ彼等が聯盟の支持と保護とを求むる所以なり。聯盟規約第十條及第十六條は外國との紛争に當り彼等を保護するものなり。ポリジエビキ巨頭は此の規定を單に規定たるに止まらず「生ける現實」たらしめんと欲し、同規定の擴張をさへ要請しつゝあり。彼等の唯一の目的は聯盟各國をして日獨を捨て、彼等に加擔せしめソウェート聯邦の領土保全及政治的獨立の擁護を確保せしむるに在り。彼等は其の政權の崩解を免るゝ爲め戦争の場合に聯盟各國を其の渦中に引入れんとするものなり。而も其の政權たるや文明を辱かしめ他國の國內的平和を紊さんとするものなり。

國際聯盟は地球の六分一に互りて、斯の如き政權を維持するの目的を以て創設せられたるものなりや?。

×

×

×

×

若し聯盟にしてソウェート聯邦の加入を許容せんか、爾後道義的權威として威力を發揮し能はざるに至らん。何となれば聯盟は道義的權威を完全に喪失すべければなり。聯盟は一二強國の政策遂行機關に過ぎざるに至ると同時にポリジエビキ宣傳の世界的中心となり、最早其存續の理由を失ひて消滅するに至らむ。

ソウェート聯邦の聯盟加入の議が如何に進捗しつゝあるやを知る者より見れば、リベリヤ政府の人民不法追放問題に關する聯盟の審議は醜惡なる偽善的行動に過ぎず。聯盟は數百萬の國民を追放したるソウェート聯邦を双手を擴げて迎へ入れんとしつゝある時に當り、敢へて此のアフリカの小共和國を非難し若くは除名せんとするや。聯盟はリベリヤ問題に關しリトビノフを報告者たらしめんとするや?。

聯盟がソウェート聯邦の加入を認むるは道義上其の教父（譯者註、洗禮に立會ひ嬰兒に代りて信仰を誓ひ教育の責任を取る人）たらんとするものなり、之れゲ・ベ・ウのテロルを隠蔽し露西亞の實狀に付き各國民の眼を晦まさせんとするものにして聯盟自身ソウェート聯邦の共犯者となるものなり。

聯盟よ、自ら欺くこと勿れ。聯盟がソウェート聯邦を歓迎するは露西亞を歓迎するものにあらず、何となればソウェート政府は露西亞人を壓迫するものにして、之を代表するものにあざればなり。ソウェート政府が露西亞人民を代表するものにあざざる事は左の二事實の明瞭に示す處なり。

一　ゲ・ベ・ウの存在　ゲ・ベ・ウは太平洋岸より歐洲國境に互る領内に到る處に無數の派遣員、密偵、牒報者を有し、且絶大の権力と特別の軍隊とを有し、反亂を粉砕する爲め急速に刑を執行することを得。

二　露西亞は常に戒嚴令下に在り。人民は國外に出づる事を禁止せらる。

ソウエート聯邦の聯盟加入に對し公式承認を與へ又は卑怯なる棄權に出でんとしつゝある各國總理大臣及外務大臣に比すれば吾人は實に微力なる闘士に過ぎざるも、過去十年間ポリシエビスムと戦ひ、今又微力を顧みず各國の元首及責任ある國務大臣に對し本抗議書を奉ると共に全世界に對し左の一言を呈せんとす。

露西亞に如何なる事が行はれつゝあるやは既に各位の知らるゝ處なり。若し各位がソウエート聯邦の聯盟加入に賛成し、其の高き權威を以て露西亞人民及文明に對するポリシエビキ政權の罪惡を隱蔽するは聯盟を正義、人道及平和の機關なりと信する人々を欺く聯盟の背信行爲に對し其の責任を分つものなり。

一九三四年六月　ゼネバに於て

反第三インターナショナル國際協會を代表し

會長　テ　オ　ド　ル　・　オ　ー　ベ　ル

一一　カール・ラデツクの『ソウエートと國際聯盟』論

(一九三四年六月八日發刊ジュルナル・ド・ナシヨン紙に依る)

最近のジュナル・ド・モスコフ紙の劈頭を飾る文章はソウエートの最も有力なる政論家カール・ラデツクの筆に成る。同氏は國際聯盟の歴史を叙して、聯盟は其の當初に於てはソウエート聯邦を攻撃せんが爲に帝國主義諸國に由て創立されたものなることを述べ、然し今日に於ては次の如くであると論じてゐる。

「現在の國際聯盟は何であるか？　歴史的現階段に於て帝國主義的膨張の傾向を有する主なる兩闘士即ち世界に於て新しき分配を得んことを求むる二箇の國家は聯盟を脱退した。聯盟は、第一に新たなる帝國主義戦争の場合最先に犠牲にされることを自覺して居る小國を保護してゐる。此等の小國は新たなる戦争の觀念に戦慄し而して國際聯盟が少くとも此の危難の進展を遅延せしむる機關たらんとを望んで居る。

國際聯盟は獨逸及其の勢力下にある諸國の侵略政策が常に佛國及其の友邦を目標とすることを知つて居る。勿論佛國は彼等の軍事的征服を免れたるものを保護し、又た自己の歐洲に於ける地位と世界的勢力たる地位をも保護することを忘れぬ。然し此地位の保護は平和の擁護を要求する。何となれば

佛國は一九一四年乃至一九一八年の世界大戰に於て其の地位を保護すべく同國を援助した總ての國家を新たなる戰爭に於て再び味方とすることを望み得ないからである。

最後に、英國及伊太利は國際聯盟に留つた。該兩國は世界の新分配戰に参加すべく準備しながらも、一方(英國)は世界的新納骨堂を準備する國々の列に加はる時機が未だ來ないと信じ又た他方(伊國)は諸大國間の敵對を利用しつゝ、其の要求する目的を達し得るものと信じて居る。

國際聯盟若くは殘骸的國際聯盟は現在の歴史的段階に於てソウェート聯邦に對し國際戰爭を組織することは不可能である。ソウェート聯邦に對して戰爭を組織するの危険は現在に於ては國際聯盟から來らずしてソウェートの敵と自白する英國側から來る。國際聯盟は軍備を制限し平和を確保するに無勢力である。聯盟が平和を保障し戰爭の危険を排除し能はざること明白にされた。國際聯盟創立の際それに関してポリシエビキが豫言したことは總て完全的中した。然し平和維持を利益とする諸國が國際聯盟の中にある。スターリンが「國際聯盟に對する貴下の態度は常に絶對に否定的なりや」との米國新聞記者デランテイの間に對して次の如く答へたのは之が爲である。

『否、常にと云ふ譯ではない。又あらゆる事情の下に於てと云ふ譯でもない。貴下は我々の見解を完全に理解し居らぬ様に思はれる。獨逸及日本の國際聯盟脱退に拘らず、否、事に依りては此二國の脱退せる爲に國際聯盟は敵意の爆發を防止又は妨害する制動器と爲り得る。從て國際聯盟は道路に横はる丘陵のやうなものであつて、少しなりとも戰爭を困難ならしめ、或程度迄平和を容易ならしめ得る譯である。然らば我々は國際聯盟に反對ではない。若し歴史的出來事が斯る經路を執るならば國際聯盟に非常な缺點あるに拘らず我々は之を支持しないと限らない。』

歴史的發展は斯くも急激に國際聯盟の役割を變更せしめた。ブルジョア諸國がソウェート聯邦に對して作つた統一戰陣は分裂した。ソウェート聯邦は國際的に非常なる大勢力となり、敵の爲には危険なる勢力となり、又た其の友邦に對しては援助を與へ得る勢力となつたのである。

ソウェート聯邦は確乎として平和政策を執り、且凡ゆる征服的觀念を排斥することを明にした。(編者註。之れはポリシエビキの常套語にてラデツクも之れを用ゆ)世人は絶へずソウェート國を罵つて赤色帝國主義者と呼びたるも、今やソウェート聯邦は其の隣邦をして此の事實を承認するの餘義なきに至らしめた。ソウェート政府の提議せる不侵略協定に署名し、ソウェート政府の主張せる侵略者の正確なる定義を承認することに由て、ソウェート聯邦の殆ど總ての隣國は其の平和政策を認めたのである。平和の保護者たる資格に於て、ソウェート聯邦は嘗に全世界の民衆の信用を獲得したのみならず、帝國主義的攻撃に由つて脅威された人々をして最始の勞働者及農民の國家に其の眼を轉ずるの餘義なきに至らしめたのである。』

三 ソウエート聯邦と國際聯盟

(一九三四年五月二十八日巴里發刊共產インターナショナル機關紙
「リュマニテ」紙所載論説)

問題であつたソウエート聯邦の國際聯盟加入が漸く確定せんとする。
之れに就て世人は質問して曰く、

「共產主義者諸君、諸君は十五年以來國際聯盟、其の設備及其の事業を攻撃した。諸君は聯盟を目して強奪的國民の集合であると云ひ、其の組織は條約を以て掠奪的行爲及少數民族の壓迫を確認するものであると云つた。従つて諸君は今其の判斷を改正する必要がある」と。

否、我々は決して夫れを改めぬであらう。國際聯盟は嘗て我々が發見した性質を今も尙保存してゐる。而して我々は平和主義の欺瞞に對して平和の爲に働く者を保護することを斷念せぬであらう。(編者註。自己の欺瞞は?)

然し、我々は一方に於て資本主義諸國の政策を熱心に攻撃しながらも、ソウエート聯邦が此等諸國と締結せる不侵略協定をプロレタリア獨裁政權の一勝利として稱讃するが如く、我々にも亦モスコウ政府の國際聯盟に對する現在の態度をソウエート聯邦の平和的努力の成功と認むるのである。

若し吾人に於てソウエート國と或る種の資本主義國と締結せる協定が他の種のブルジョア階級の如何はしき目的を失敗せしむべき性質のものであることを承認する以上は、何故我々はソウエート聯邦と資本主義國家團——國際聯盟加入國——との協定にして或冒險的煽動家の計畫を失敗せしむるに役立つものを排斥しなければならぬのか?。

之れに對して二種の反駁論がある。

其の一に曰く「國際聯盟はヴェルサイユ條約から生れたものである。其の規定自身が條約の一條項である。ソウエート聯邦が之れに加入することはソウエート聯邦が間斷なく攻撃して居る此の條約に加盟するものである」と、之れに就ては最近發行のモスコウ新聞に於てゲデイーヌが次の如く適切なる答辯を與へた。

『ソウエート聯邦は世界大戰の終末を劃する條約を承認するとは曾て言つたことはない。ソウエート聯邦は常に戦争から生れた國際條約の反對者である。が、或國家が現行條約の改正を口實として戦争の準備を始めた時にはソウエート聯邦は斯かる改正に反對なる旨を聲明した。』

其の二に曰く「ソウエート聯邦はやがてジュネーブの條約及其の規定に加盟する。が、夫れはプロレタリア國家が其の一般政策を資本主義國の判斷に任せ、帝國主義國の名士より成る高等裁判所の勸誘を採用することを承認するを意味するものではなからうか?」。

之れに對する我々の答辯は次の通りである。

『ソウエート聯邦は平和の爲に適切なる總ての勸誘に應ずるであらう。更に之を正確に云へば、ソウエート聯邦は平和保護の爲めには何人よりも忠告及勸誘を受くる必要がない。一九一七年以來の平和は、戦争の原因たる資本主義を倒し且其の最初の政令を以て平和の意志を聲明した國家(註。即ちソウエート聯邦)に依りてのみ保護され、又は保護され得たのである。従て若し國際聯盟がソウエート國に敵意を有し、又た實際平和に反對する陰謀に聽従する時はソウエート聯邦は規約、否、國際聯盟を飛び越へてプロレタリア政權及真正なる平和と一致する利益を保護するの行爲に出るであらう。最大の要點はそこにある。何よりも神聖なる規約はソウエート國が全世界のプロレタリアと締結した所のものにて、同國は斯る規約によりて革命の利益を保護し、又た平和の利益を保護するの義務を負ひ此の使命を果たすことを禁止する何等の規約も、何等の規則も無いのである。』

以上に於て種々の異論を排除したるを以て進んで何故ソウエート聯邦が國際聯盟に加入するかの理由を説明するの必要がある。

國際聯盟は其の性質を變更しない。が、其の構成分子は變化した。一の主要なる出來事が最近に起つた。乃ち日本と獨逸が聯盟から脱退したことである。日本と獨逸は現在反ソウエート陰謀の先頭に立つ兩國である。日本及獨逸は今日世界に於て最も恐るべき戦争の二大噴火孔である。此等噴火孔が孤立せしめられ冒險的陰謀家が害をなし得ない地位に置かれ、且東京及伯林の指導者の努力が阻害されて他の帝國主義者を反ソウエート計畫に引き入れ得ざるに至ることが平和の利益及世界的プロレタリアの利益の要求なることは餘りにも明白である。

若しソウエートの國際聯盟加入が此孤立を重大化し、此陰謀を失敗せしむるに有效であるならば、ソウエート聯邦の保護と平和保護とに重きを置く總てのプロレタリアは此ソウエートの行動に對し無條件の賛意を表するであらう。而して若し此の加盟が佛蘇相互援助協定の締結を容易ならしめて四月十七日の佛國通牒(編者註。軍縮に關する佛國の第二次對英回答を指す)に現はる、危険なる努力を緩和し佛國指導者の手から軍備擴張の口實を奪ふならば彼等は更に熱心にそれに賛成するであらう。乃ちソウエートは佛國共產主義者のブルジョアに對する闘争を少しも妨害せずして彼等に追加的武器を供給するものである。

ソウエート聯邦は自己に忠實である。又レーニン及スターリンの黨派の全線に忠實である。オーベル聯盟、ジュネーブ新聞、伯林及巴里の白系露人等はソウエート聯邦の國際聯盟加入に熱烈なる反對を表して居るが、夫れこそ最悪なる反革命主義である。

而して之れは好き徴候である。(ガブリエル・プリ)

四 ソウエート政府の聯盟加入とジョルジャ國の獨立

(一九三四年七月二十日發刊ジュネール・ド・ジュネーブ紙論説)

チエツコ・スロヴァキヤのソウエート承認は、ジョルジャ問題に對して同國が如何なる態度を執るべきやの問題を伴ふ。ブラーグの上院議長スークツプ博士は同時にチエツコ・スロヴァキヤに於けるジョルジャ友好團體の會長であるので同博士は其の友人等を見棄て其の意見を裏切らねばならぬのであらうかと思はれ、共產主義者側の質問を誘起した。が、上院に於けるスークツプ博士の答辯は次の如くであつた。

『予はジョルジャ民族が其の自由及獨立の爲にする正當なる闘争を、革命運動と認めんとするあらゆる斷定に反對して起つことを予の義務なりと信するものである。此の問題に關して上院議員ネドヴェツドの言ふたことは總てソウエートの斷片的原則にすら矛盾して居る。ジョルジャ人は約二百五十萬を算し、世界最古の民族であることは周知の事實である。彼等は特殊の國語を有し、基督教以前既に獨立國として存在したのである。古昔のコルシード即ち金毛 (Toison d'Or) 國を誰が知らぬであらうか？ ジョルジャが自然の資源、鑛山、温泉及森林に富むことは昔話かと思はれる程である。ジョルジャ民族は高級の道德と、高級の文化とを有し、其の文藝は燦爛たるものである。ソウエート革命後、ジョルジャは同革命と同一の原則並に民族自決の權利に基き、獨立の民主的共和國を組織し、一九一八年五月二十六日之れを宣言したのである。而して此のジョルジャ民族の國家は、ヴェルサイユ會議に由て承認され、其の他多くの國家に依りても承認された。加之、ソウエート國自身すらも、一九二〇年五月七日モスコウに於て締結された條約に由て之を承認したのである。

此條約に由て設定された法律上の地位は、今尙ほ少しも變更されない。變更されたのは單に事實上の地位のみである。之れはジョルジャの憲法制定會議が、ソウエート軍隊の侵入に由て放逐されたからである。血戦は數週間繼續し、ジョルジャは敗績し、爾來同國は外國軍隊の占領の下にあるのである。斯るが故に反革命的の點は少しも無い。又露國の内事に干涉する所も更でない。ジョルジャ人の運動は唯たジョルジャの自由及獨立のみを要求するのである。其の要求する所の法律的地位は、十四年前ソウエート國自身すら公然承認したものである。ソウエートが國際聯盟加入の必要を認めた今日に於て前記ジョルジャの要求は尙更ら當然に思はれる。それは國際聯盟の公文書中にジョルジャの獨立權は特に明記されてゐるからである。獨立復興の爲に努力するジョルジャ運動が、一般輿論の前に公開され、夫れが正當なる同情的反響を得つゝあるは誠に當然のことである。

尙予の附言せんとするは、五月十八日から二十四日迄フォルクストン(英國)に國際聯盟協會の國際的聯合の會議があつたことで、之には全歐羅巴の知名の人々が列席し、席上ジョルジャの地位に關し

世界の注意を喚起せんが爲にジョルジャ問題も討議され、一つの決議がなされて、同問題が「國際法に適合せる平和的方法」を以て解決されんことを要求して居る。フオルクストンの會議にはマサリツ大ク學教授バツサ博士も列席した。予の考では此國際的聯合の意見は絶對に我共和國の政策と一致し、何等ソウエート側より非難さるゝ理由なきものと思はれる。

チエツコ・スロヴァキヤ國民は、一世紀間に互る自由の爲の鬭争が何を意味するかを能く知つて居る。従てジョルジャが其の自決の爲にする鬭争及全高加索諸民族に對して常に同情を有することは當然である。』

次にスークツプ議長は質問者に對して、其の職を辭するの必要なく、又ジョルジャの友人との協力を放棄する意思もなき旨を力強く聲明した。上院全部は、共產主義者を除くの外、此の尊敬すべき議長を長い間喝采した。共產主義者すらも熱心なる注意を以て傾聴して居た。

スークツプ議長の高尙なる感情は賞讃に値する。而して他國の壓迫を受けて同情を受くるの必要ある小國民に對し彼が其の友情を持続さるるは願はしいことである。が、民族自決の原則のお蔭に由て其の獨立と其の存在とを獲得した勇敢なるチエツコ・スロヴァキヤ民族が、此の原則を嚴守してジョルジャが其の完全なる權利と獨立とを回復する迄は斷然ソウエートを承認することを拒絶したならば、其の立論は更に遙かに有力で且明確なるものであつたらう。

五 ソウエート政府の聯盟加入反對論の根據

(一) 赤化宣傳 ソウエートの聯盟加入問題に付き、何人も第一に考へることは赤化宣傳の問題である。規約前文に依れば、聯盟の目的は「國家間の協力を促進し且つ各國に平和と安全とを保障する」にある。然るにソウエート政府は國交開始の際赤化宣傳を爲さるることを約束して置きながら密に之を行つてゐる。ソウエートの赤化宣傳は、布教又は學術の講演と異なり、革命の豫備であつて各國の平和と安全とを脅かすものである。ソウエートの赤化宣傳及び内亂援助が、其の鎖國主義と相俟つて今日の經濟的不況、政治的及び思想的不安の一大原因をなしてゐることは、露西亞が右と反對の政策を採つた場合を想像すれば何人にも明白であると思ふ。

ポリセビズムは進化したとか、ソウエートはトロツキーの永久革命主義を捨て、スターリンの「一國社會主義」に轉向したとか云ふが、ソウエート政府及び第三インターナショナルの獨裁者たるスターリンは、本年一月開かれた第十七回共產黨大會に於て「吾人は世界到る處必勝を期して邁進せん」と黨員を激勵し、黨は黨で世界革命の機關たる第三インターナショナルを強化するの必要を決議してゐる。トロツキーとスターリンの勢力争ひに利用されたポリセビズムの教義上の論争に重きを置き過ぎて、ソウエートの實際の政策を忘れてはならない。支那を始め世界各地でプロレタリア

革命の宣傳乃至煽動が行はれてゐることは、議論ではなくして實に事實である。

- (二) ボリセビキ平和の意義 ソウエート政府は國民に對し絶えず世界革命及び對外戦争が切迫してゐることを宣傳し、常に軍備の充實に努力してゐる。然るに外國に對しては機會ある毎に其の平和主義を宣傳し、資本主義諸國の帝國主義なるものを攻撃してゐる。第三インターナショナルの佛國に於ける機關紙と稱せらるる「リュマニテ」紙の本年五月二十七日の社説に曰く

「如何なる約束にも優りて神聖なるは、ソウエート國が世界のプロレタリアと結びたる規約であつて、此の規約はソウエート國に革命及び平和擁護の義務を負はしむるものである。」

他國の政府の知らぬ間に、某國のプロレタリアと規約を結び、革命を擁護しながら、同時に平和をも擁護するとは、一見矛盾してゐるやうであるが、ボリセビキの平和と我々の平和とは同一ではないのである。他國の人民を煽動して内亂を起させることは、我々から云へば平和を破るものであるが、ボリセビキから云へばそれがプロレタリア革命を目的とする場合には平和を紊すことにならぬ。又ボリセビキ政府が其の内亂を援けても、それは内政干渉にあらずして革命の擁護となるのである。つまりボリセビキの平和とは、他國が其の領土内に於て赤化宣傳の自由を認め、且つそれに對しソウエート側から指令を發し、指導者を送り、資金や武器を供給したことが知れても、それを理由としてソウエート聯邦に對し、武力干渉を爲し、又は戦争に訴へない事をいふのである。

- (三) 反宗教 聯盟規約には信教の自由を保障する規定がない。然しそれは當然の事であつて、特に

明文を要しないと認めたが爲めである。然るにソウエート政府は共產主義の精神に反することを理由として宗教を迫害し、傳道は國家に對する敵對行爲なりとして之を處罰してゐる。

- (四) 非人道 昨年はウクライナを始め露西亞各地に飢饉あり、今年も兇作の地方一二に止まらず、

多數の農民は飢餓に瀕し、歐洲諸國の宗教團體に向つて密に救濟方を哀願して來て居る。然るにソウエート政府は凶作の事實を否定し、相變らず小麦其他食糧品の輸出を繼續してゐる。

ソウエート政府は搾取を禁止することを名として、個人の生業を奪ひ去りたるを以て、國民は今や政府の與ふる仕事に依るの外生活の途なく、食料品の供給も殆ど政府の獨占に屬し、切符制度に依り、各人に對する販賣量を制限せられ居る有様なるを以て、政府に對しては絶對的服従の外なく聯盟規約第二十三條に定むる「公平にして人道的なる勞働條件を確保する」の如きは思ひも寄らざる處である。

裁判はプロレタリアのみを保護するもので、甚だしく公正を缺いてゐる。但しプロレタリアたると否とを問はず、政府の主義方針に叶はざる言動を爲す時は反革命、軍事又は經濟スパイ、計畫妨害、投機等の罪名の下に、所謂政治犯人としてゲ・ペ・ウに依り裁判を用ゐずして直ちに銃殺其他の刑に處せられる。就中最も非人道的なるは「清算」と稱する團體的處分にして、所謂富農征伐に適

用せられたるは有名なる事實である。

(五) 條約無視 ソウェイト政府は舊帝制政府の締結したる一切の條約及び對外債務を一方的に廢棄し、而も權利丈けは遠慮なく之を主張してゐる。舊政府の帝國主義を否認し、帝國主義の實行に使用せられたる外債を破棄しながら、其の結果侵略したる領土は之を保有してゐる。ポリセビキは自己の締結したる條約は嚴密に之を尊重すると稱してゐるが、デヨーヂャに對する條約を無視して同國を征服したるは周知の事實である。又各國に對する宣傳中止の約束は一として尊重されてゐない。斯くの如き横暴不誠實なる政府は「條約上の總ての義務の嚴密なる尊重に依り國際間の協力を促進」せんとする聯盟のメンバーたる資格なきものと謂はざるを得ない。然るに歐洲諸國がソウェイトを聯盟に加入せしめんとする理由如何、又ソウェイト政府が今に至りレーニンの所謂「歐洲政匪の巢窟」たる國際聯盟に加入せんとする理由如何。

國際聯盟は萬國聯盟であつて、地球上の總ての獨立國を網羅するのが理想である。然るに日米獨露の四大國が不参加又は脱退の儘では、萬國どころか歐洲の聯盟にさへなつてゐない。日獨が復歸しないならば、せめて露西亞を加入させたいと思ふのは無理もない話である。ソウェイト政府を加入せしむるは一億六千萬の露西亞人の代表者を聯盟に参加せしむる所以であるとか、ポリセビキは世界革命を放棄し、國內の經濟的建設に餘念がないとか、理窟は何とでも付けられる。今の儘では

佛蘭西の聯盟であるとか、英佛の聯盟であるとか、ヅエルサイエ條約執行機關であるとかいふ非難を受け、聯盟の權威が益々失はれて行く虞がないでもない。ソウェイトといふ變り者を加へれば、聯盟の空氣も幾分變るかも知れないといふ希望を抱く人も無いことはない。質よりも量を尊ぶ人から云へば、ソウェイトの加入に依り聯盟の地盤は面積に於ても人口に於ても著しく擴大し強固になるわけである。歐洲戦争及び露西亞革命の結果たる社會不安に乘じ、大政黨を造り上げ、大臣宰相にまでなつた第二インターナショナルの人々から云へば、ポリセビキは怨み重なるブルジョアの爲めに此世ながらの地獄を造つて其の支配者となり、人相まで變つてはゐるが、嘗ては生死を共にせんと誓つた舊友である。それがブルジョア世界が戀しくなり、轉向して仲間に入つて來るのであるから、滿更いやな心持ちでないに違ひない。其の代り昔からポリセビキを惡漢と思ひ込んでゐる人々は、エリオ氏やマクドナルド氏等からは我々の舊友であると紹介されたとして安心せず、改心して我々の仲間入りをするのなら宜しく先づ家庭生活から改善して其の誠意を示すべきである位の反對意見を出すのはあたりまへであらう。「リユマニテ」紙は「ソウェイトの加入を可能ならしむるものは反ソウェイト陰謀の首魁たる日獨兩國の脱退である」と論じてゐる。日獨兩國が脱退して頭數が足らなくなつたから、ソウェイトの加入が可能になつたといふ意味か、日獨といふソウェイト反對者がゐなくなつたので、加入する氣になつたといふ意味か、よくわからないが、日獨の留守に聯盟

内で大に兩國反對の宣傳をする考へであることは勿論で、聯盟は今後ポリセビキの宣傳放送所として天下の注目を引くやうになるかも知れない。

曩に述べた通りポリセビキには革命の宣傳を中止する考へはない。中止しなければ他國との間に紛議を醸し、或は戦争になるかも知れない。否、ポリセビキは必ず戦争になると確信してゐる。それであるから彼等は何を差措いても軍備を擴張して來たのである。然し宣傳煽動が本職で内亂戦なら自信があるが、正規の戦争は困る。第一經驗がなし、それに共産黨員だけでは間に合はない。全國民を動員しなければならぬ。然し國民多數に武器を持たせる事は、プロレタリア獨裁政治の破壊のもとである。戦争はさうあつても之を避けなければならぬ。そこで始めたのが不可侵條約締結の交渉である。不可侵條約を提議する以上、平和政策を宣傳しなければならぬこと勿論である。ところが一方で赤化宣傳をやつてゐては平和政策の宣傳を人が信用してくれない。これには困つたらしいが、氣長くやつて居る内に遂に成功し、隣接國は勿論佛蘭西とまで不可侵條約を結んでゐる。日本に對しても平和政策を宣傳し、不可侵條約を提議し、暴露戰術、威嚇戰術までやつて見たが物にならなかつた。然し歐米に於ける日本の評判を悪くし、其の反射作用で自國の不評判が薄らぎ、米國からは承認され、聯盟加入の希望も達せられそうになつて來た。聯盟に加入すれば規約第十條及び十六條で戦争を避けることが出来る。従つて平和工作も大體それで一段落となるわけである。

然し以上の平和工作は、平和の爲めの平和工作ではなくして、赤化宣傳の自由、換言すれば第三インターナショナルの活動の自由を確保する爲めの平和工作である。第二、第三の五年計畫を實行して行くには、國內に於て大宣傳を續けて行かなければならない。然し國內宣傳だけでは緊張した心持ちを續けさすわけには行かない。どうしても外國に於ける宣傳が必要である。外國で宣傳しても戦争にならないやうにすること、即ち宣傳の安全を保障すること、それがポリセビキの平和工作である。(昭和九年九月 二瓶兵二)

マルキシズムのユートピアが實際的活訓に擊破せらるゝに伴ひ、從來掩はれ居れる祖國及正義の觀念、積極的基督教精神に溢るゝ國民的及社會的連帶責任の觀念が旭日の如くに上りつゝある。

露國 イワン・コログリウオフ

六道徳と政治(ソウエート・ユニオンと國際聯盟)

(一九三四年七月十日ジュネーブ發刊ル・メツサジエル・ソシアル紙論說抜萃)

……(前略)

我々は問題を簡單にして「第三インターナショナルの革命主義は法を基礎とする平和の理想と兩立するや、否や」を考へて見たい。若し此の問題を國際政治の上から論じやうといふならばソウエートのジュネーブ乗込みを歓迎する理由及巴里をしてモスコウに接近せしむる獨逸の脅威(何時もきまつて獨逸だが)とはどんなものか、それを説明してもらひたい。又露西亞を聯盟の審議に参加せしむれば當分(幾年續くことか?)平和の保障になるといふ理由を納得の行く様に説明してもらひたい。我々は大にそれを謹聽しませう。其の代り説明を聞いた上でそれから自然に出て出る結論をまとめる事だけは許してもらはなければならない。我々の結論では、ジュネーブの計畫には新味といふものが殆ど無く、駈引き陰謀、均勢術、脅迫及讓歩等傳統的な舊式外交に過ぎない。従て爾今聯盟は俗惡な政治の一つの道具となり、それが兵器博物館に在る古い道具に比較して優つてゐるといふ事を期待し得べき理由を見出し得ない。若し我々が聯盟規約を以て道徳と政治との關係に於て歴史的に新紀元を劃するものと信じてゐたとすればそれは我々の誤解であつた。多くの悲しむべき事件はそれを我々に物語

つてゐる。ソウエートが愈々聯盟に加入したら、我々をして決定的に誤解であつた事を確信させるであらう。

□※

□※

□※

□※

□※

……然し、日本は今日も尙ほ日露戦争當時の如く健在であらうか?當時の日本は傳統的矜持を有し、名譽を重じ且勇敢にして全世界に於ても最良の種族であつた武士階級が支配層にありしが、今日は同國に急進黨あり、同盟罷業あり、又たポリシエビキの宣傳もありと傳へらるゝのみならず閣臣の暗殺も行はれてゐる。此の立派なる國は恰も太平洋争覇戦の決勝期たる現時に於て、白人種の民主的マルクス主義墮落形式の害毒に染浸して、既に其の存立の絶頂を越へたのではないか?。若し然らずして尙ほ舊來の攻勢力を保持せば、海上に於ける其の比類なき戰略的地位と相俟て如何なる敵の聯合力にも對抗し得べく、其の場合に於ける問題は其の敵國の誰であるかと云ふことにあらう。

獨國 スペンゲラー

ソウエート政府の聯盟加入問題

67
96

國際思想研究會設立趣意

世界の秩序は東西の國家が正義人道を重んじ互に他の國體を敬するを以て基調とす。然るに第三インターナショナルは其唯物觀に依りて全社會を律し宣傳、煽動、擾亂等諸有手段を用ひて廣く其主張を強行せんとす。是れ正義人道に悖り獨り我建國の精神と相容れざるのみならず國際間の秩序を紊すものなり。因りて茲に國際思想研究會を設立し海外同趣旨の團體とも連絡して第三インターナショナル其他同種主義者の思想及其活動を調査検討し以て我國體の擁護並に國際正義の推弘に貢獻せんとす。敢て同憂諸賢の賛助を冀ふ。

昭和八年九月二十三日

國際思想研究會出版

國際思想研究會編

ソウエート露西亞の現實

菊判表紙八三二頁 定價金十八錢

(郵券代用差支無)

本書は「赤い天國」の現實を知らんとする各方面の嚆望に應じ國際思想研究會が露西亞に近き歐洲各方面に紹介して蒐集せる情報を編纂せるものにて職業組合、労働者、失業者、労働者取締、農民、集團農民、ソウエート露西亞の實生活殊に住居、食糧、氣風、學校及ゲ・ハ・ウ其等に就ての真相を物語つてゐる。

前イルクーツク大學教授 獨國ハンス・ハルム博士述

今日のソウエート露西亞

菊判 四三頁 定價金二十錢

(郵券代用差支無)

本書は帝政時代よりソウエート政權時代に互り露西亞の大學に教鞭を取りたる獨國ハルム博士が一年歸國の上試みたる露西亞の政治、經濟、宗教及家族制度等に關する觀察及批判的講演を同博士の許諾を得て翻譯したるものにてソウエート研究並に思想問題考究に關する最新の好參考書である。

昭和九年十月二十九日印刷
昭和九年十一月一日發行

定價金二十錢

郵税金貳錢

編輯者

花 岡 止 郎

印刷者

小 林 又 七

東京市麴町區永田町一丁目四番地

東京市芝區琴平町一番地ノ五號(虎ノ門角) 不二屋ビル四階

發行所

國際思想研究會事務局

電話三三八一三二九番

發賣所

東京市日本橋區通二丁目六番地ノ二

丸 善 株 式 會 社

電話日本橋(24)自二二二〇番 至二二二〇番

67
96

672
96

